

取産 香遺

Vol.71

「実相寺山門」 日蓮宗不受不施派 常葉檀林の旧跡



▲実相寺山門

仏性山実相寺は苅毛地区に所在する日蓮宗の寺院です。創建年代は未詳ですが、明応3年（1494）日久上人の代に真言宗から日蓮宗に改宗したと伝わります。

市の南部、旧栗源町から多古町にかけては日蓮宗不受不施派の信仰が厚かった地域で、江戸時代には多くの寺院や檀林（僧侶の教育機関）が開かれました。この宗派は幕府からは禁制の宗派として扱われたため、密かに活動を続けた時期が長く続きました。

苅毛の実相寺もこの宗派に属し、延宝2年（1674）には、同寺にも日賢により常葉檀林が開設されました。一時は多数の学僧のための宿坊が並んでいましたが、江戸の中頃の火災により檀林の堂宇は焼失し、山門だけが今に残ったともいわれます。

この実相寺山門は芸州浅野公から寄進されたものと伝わります。当時、浅野光晟公の正室である満姫（自昌院）と

いう人は不受不施派の信者で、この地域にも関係の深い日講上人の庇護者でもありました。この日講と日賢は親しい関係にあったため、浅野家菩提寺の国前寺の末寺である実相寺に常葉檀林が開かれるに際し、山門が寄進されたのでしょうか。残念ながらそれを裏付ける記録は確認できません。

山門は、切妻造、四脚門、現在は棧瓦葺（元は茅葺）の建物です。本柱は方柱、前後で門を支える4本の控柱は円柱です。組物は出組・平三斗、中備や棟木下に板墓股を用いています。垂木は二軒の繁垂木、天井は化粧屋根裏となります。とくに彩色などは施されていません。棟札など建築年代を示す記録はありませんが、その様子から見て檀林開設頃の建築と考えられています。

山門は昭和53年5月、常葉檀林は昭和57年3月にそれぞれ市指定文化財となっています。問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224